

一学校教育目標一

よく学び 心豊かで

たくましい上間っ子

(1) よく考え進んで学ぶ子

(2) 明るく思いやりのある子

(3) ねばり強くたくましい子

学校便り

第15号

R5年7月6日(木)

那覇市立

上間小学校

発行責任者

校長 宮里 寧

TEL 917-3327

# 上間っ子

## お話朝会『もう一人の自分』 - 『自分のことを大切にできる力』『自尊』の念 -



「どうせ私なんか何をやってもダメだ」何不自由のない小学生の言葉です。「自尊」とは正反対の「自己卑下」の極みです。この歳にしても、こんな考えを持つてしまう子もいます。こうした子に「そんなことはないよ、親も先生もあなたのことを愛している」というメッセージを伝え、温かく抱きしめてやるのがよい、よく出される処方箋です。もちろん、それはいい方法です。

しかし、それだけではこの子の「自尊」の念は育まれません。人は「受け身」である以上「自尊」の念を持ってないからです。「私なんか」と言っている子は、愛情不足・・・・というだけでは見落とされる視点があります。この子はそう言うことによって努力放棄の隠れ蓑にしている場合があります。何も能動的にやらずにいて「何をやってもダメだ」と言っています。これでは、「自尊の念」が育ちません。「温かく受け止めてやる」だけでは、根本的な解決にはなりません。自分が自分を好きになれるかどうか、さらには尊敬できるようになれるかが根本的な問題なのです。そこで、朝会でこんな話をしました。皆さんは、自分の中に「もう一人の自分」がいるのを知っていますか？「自分」には、「する自分」と、それを「見ている自分」がいます。この「うえまマン」みたいな「見ている自分」は、自分のやることすべてを見えています。「おまえ、あのときずるいことをしたよな」「おまえ、あのとき全力じゃなかったよな、手をぬいたよな」「おまえ、あのとき人につられて本心じゃないことやったよな」って。他人にはわからなくても、いつも厳しい、中立な目で見ています。ごまかせない。だれでもずるいことをしたことやさぼったことはあるでしょう。それで、しめしめ、誰にも気づかれずにうまくいった！と思ったこともあるかもしれません。でも、知ってて、覚えている人、いるんです。それがもう一人の自分、「うえまマン」です。だから、ほら、今だってそのずるいこと、自分では覚えているでしょう。

もちろん、「うえまマン」が覚えているのは悪いことばかりじゃありません。自分のがんばりも報われなかった努力も見えてくれます。その「うえまマン」に「うん、オマエもなかなかよくやっている」と認められるということが大切なんです。これを「自尊」の念といいます。「うえまマン」に尊敬されれば、「うえまマン」は大きな力を与えてくれます。でも、ずるいことだけをしてうまくやろうなんていうときは、大きな力でその邪魔をするんです。「おまえなんか、成功する資格なし！だって、あんなに卑怯だったじゃないか！ってね。人に気づいてもらえなくても、人からほめられなくても、「うえまマン」だけは知っていてくれて、大きな力を与えてくれます。

上間っ子は「うえまマン」に尊敬してもらえそうな生き方ができますか。